

令和7年度 平石中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな人間性と創造力を持ち、自主的精神に満ち、心身共にたくましく、実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・明るく元気できたえる子（鍛える）
- ・おちついてよく考える子（考える）
- ・みんな仲よくきまりを守る子（思いやる）
- ・ねばり強くやりとげる子（実行する）

※ 平央小の合言葉 「なかよく かしく たくましく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくり」

小規模校ならではの、児童一人一人へのきめ細かな対応を基盤に、児童が生き生きと自分らしさを発揮できる安心・安全な学校、家庭や地域からの信頼をもとにした地域とともにある学校、教職員が専門性を生かし自分の力を十分に発揮できる学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「小学校学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画 2025」「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」等に基づき、児童の実態を踏まえ、家庭や地域との協働を進めるなど特色ある教育活動を推進する。

(1)児童が安心して楽しく通える学校づくりを進めるため、互いのよさを認め励まし合う雰囲気醸成するなど、人権尊重の教育を基盤とした安心安全な学校づくりに努める。

(2)明るく元気できたえる子の育成に向け、体力の向上と望ましい食習慣の形成、そして安全教育の充実に努める。

(3)落ち着いてよく考える子の育成に向け、児童の学ぶ意欲の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実に努める。

(4)みんな仲良くきまりを守る子の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導の充実と、豊かな人間関係を築く教育活動の推進に努める。

(5)ねばり強くやりとげる子の育成に向け、児童の自己肯定感を育むとともに、成功体験を繰り返せる環境づくりを推進し、未来を生き抜く力の醸成に努める。

(6)家庭・地域・関係機関と連携、協働を推進し、社会に開かれた教育課程の視点から、地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくりに努める。

(7)教職員が高い使命感や、やりがいをもって勤務し、質の高い教育を行うため、業務の効率化を図るとともに、勤務時間の適正化に努める。

○(8)鬼怒地域学校園の教育ビジョンを達成するため、地区内小中学校との情報共有、及び共通実践を通して、小中連携の一層の充実に努める。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

(1)関係法令、並びに小学校学習指導要領、県や市教育委員会の指導方針、学校経営方針等に基づき、児童や地域の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」を編成する。

(2)個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に努めるため、学習者主体の学び、他者との協働による学びの充実にに向けた内容にするとともに、体験活動を重視した特色ある教育活動や探究的な学習、教科横断的な学習を実践し、児童の知・徳・体バランスの取れた「生きる力」を育む教育課程を編成する。

(3)鬼怒地域学校園の各校との連携を図り、小中一貫教育の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営
児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくりを实践するため、学校の組織力を高めるとともに、家庭や地域との連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。
○ 児童が安心して通える、魅力あふれる安全な学校づくり
○ 児童の学力向上を目指す学校づくり
○ 児童の自己肯定感を育成する学校づくり
・ P T A や地域協議会との連携強化による、地域学校協働活動のより一層の充実
・ 業務の効率化と勤務時間の適正化等を図るための風通しの良い職場環境づくり
(2) 学習指導
○ 自他のよさを認め合い、思いや願いを大切にできる子どもの育成
(3) 児童生徒指導
○ 夢に向かって、粘り強く取り組む児童の育成
— 家庭と連携し、児童の自己肯定感を育む取組の推進 —
(4) 健康（保健安全・食育）・体力
○ 自らの心身の健康に関心を持ち、進んで健康・安全な生活をしようとする児童の育成
○ 夢に向かって、粘り強く取り組む児童の育成
— 家庭と連携し、児童の自己肯定感を育む取組の推進 —

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・ねらいを明確にした上で、探究的な学習や体験活動等の多様な学習活動を通して、他者と協働しながら学習に取り組むよう指導する。 ・個別の指導や支援により、分かる授業を展開し、児童の学習意欲を高め、進んで学習に取り組む態度を育てる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.8%で、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・ねらいを明確にした上で協働的な学習活動を通して意欲を高め、主体的に学習できるように取り組んでいく。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・道徳の授業において、多面的な視点から思考を深める議論の場となる授業展開を図る。 ・ファミリー班活動や学校行事等における異年齢児童との活動の機会の設定、地域の大人との交流などにより、学年・学校を越えた人とのかかわりを深める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.8%で、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・議論を行い、考えを広げたり、深めたりする道徳の授業を行う。 ・ファミリー班を中心とした異年齢交流活動を行う。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・水泳検定、なわとび検定等の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努める。 ・「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の努力や良さを認め励ます教育を推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 87.7%で、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・目標を明確にし、粘り強く取り組み、自ら課題を見付け追究する環境を作ったり、児童のよさを認める場面を設けたりしていく。

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童、教職員、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断や避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施するとともに、体験活動を通じた指導を行う。 各種便りを定期的に発行し、さくら連絡網や HP を活用して保護者への啓発を図る。 歯みがき指導やフッ化物洗口など歯と口の健康づくりに取り組み、習慣化を図る。 	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答 91.8%, 保護者 95.2%, 教職員 100%で指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、健康や安全への意識を高めていく。 ・健康診断や避難訓練の必要性を伝え、児童が健康や安全に興味・関心をもって生活できるような指導を継続する。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動やキャリア教育等を通して自分のよさを知り、夢や目標をもって努力し自らの成長を実感できる教育活動に取り組み、振り返りを共有する。 一人一人の個性を生かす活動を工夫したり、帰りの会等で個人のよさを認める場面を設けたりして、自己理解やよりよい人間関係づくりを促進し、友達と協力して働くとする態度を育む。 	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.0%, 教職員の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・学習活動や行事の中で振り返りを行う際に、自分の成長した点を学級等で共有する時間を確保していく。 ・学校行事での努力や向上した点を共有する時間を引き続き設けていく。 ・様々な活動の中で、自分や友達の良さを互いに知る機会を設けていく。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ALT と連携し、学年の実態に応じ、外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ALT との給食や授業外の交流を通して、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は児童 78.1%, 教職員は 100%となった。児童の肯定的回答が昨年度の結果より低下した。 【次年度の方針】 ・興味関心を高め目的意識をもって学習に取り組めるよう、ALT との打合せを充実させ、授業の取り組み方の工夫をする。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や社会科、総合的な学習の時間等において、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開する。 宇都宮学などの学習の様子について、学校だよりや学年だよりを活用して発信する。 宇都宮の情報を、さくら連絡網等で発信することにより、地域の良さを実感できるような児童や保護者の地域活動を推進する。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は児童 90.4%, 保護者は 76.9%となった。昨年度と比較し、児童・保護者とも肯定的回答が上昇した。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科・総合的な学習の時間で宇都宮市全体や地域の良さを実感できるような活動に取り組んでいく。 ・校外学習や地域の方との交流を通して郷土を愛する心情を育む。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階や、各教科等の学習の特色に応じた 1人1台端末の効果的な活用を推進し、児童の情報活用能力の育成を図る。 情報教育担当や司書、学級担任が連携し、1人1台端末や図書室等を活用した調べ学習や発展学習の充実を図る。 図書だよりによる啓発や読書週間における家庭と連携した取組など、学校図書館を核とした読書活動を推進する。 	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 87.7%, 教職員は 100%となり指標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の発達段階に応じた 1人1台端末の活用に取り組んだり、図書室の有効活用に取り組んだりしていく。</p>
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校農園活動などを通して、児童が自然の豊かさを実感できる教育活動に取り組む。 親子除草やクリーン活動・リサイクル活動など、学校内外の環境維持を意識させる教育活動に取り組む。 SDGs の内容を読書活動や給食指導に取り入れ、関心をもてるようにする。 	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.5%, 教職員は 100%となり、指標を上回った。 【次年度の方針】 ・自然と親しむ体験活動や食農体験・地域の農家の方との交流活動に取り組んでいく。 ・「持続可能な社会」「SDGs」に関するコーナーや掲示物を作成し、児童の意識の高揚を図る。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会やケース会議、児童に関する情報交換会を通し、特別な支援を必要とする児童の情報について共有を図る。 ・児童の活動をしっかりと見取ること、児童の特性に合わせた適切な支援や指導に生かすようにする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は100%で、指標の85%を上回った。授業のねらいを明確にし、児童一人一人の学習状況に応じた指導を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に情報を共有し、必要に応じて校内支援委員会を開催することで、児童の特性に合った支援や指導方法を学校全体で共有していく。
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ月間やいじめアンケート、道徳の授業の取組を通し、全校体制で様々な機会を捉え、人権の尊重や「いじめは絶対に許されない」ことについて指導する。 ・教職員は児童の様子を観察し、未然にいじめを防ぎ予防に努める。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は97.3%となり指標の85%を上回ったが、保護者の肯定的回答は77.8%となり指標を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間やいじめアンケート、道徳の授業、児童の様子を観察等を行い、いじめの未然防止に努めていく。 ・日々の様子やアンケート、教育相談などをもとに、いじめの早期発見に努める。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議での情報交換等で学級の課題を取り上げ職員の共通理解を図るとともに、適宜、ケース会議や不登校対策委員会を開く。 ・友達の良いところを見つける活動等を行うなど、児童の良さや努力などを認める教育を推進する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は98.6%、教職員の肯定的回答は100%で、指標の85%を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から児童の良い点や課題、適切な指導方法について共有するとともに、適宜ケース会議を開くなど、学校全体で歩調を合わせ指導していく。 ・児童の良さを見つけ、認める活動を継続していく。
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児童が得意なことで活躍できる場面を設定する。 ・結果だけでなく過程（努力や準備）にも目を向け、機会を捉えて適切に児童や保護者に伝えるよう意識する。 ・学校行事など振り返りの時間を設け、できたことについても焦点を当てるようにする。 ・保護者や地域には、学校で生き生きと活動する児童の様子をHPやメール配信、各種便り、回覧板等で積極的に発信する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は95.9%で、指標を上回った。保護者の肯定的回答も94.9%であった。教職員は児童一人一人を大切に、それぞれの良いところや努力の過程に目を向け、見取ったことを児童や保護者に伝えるなどして自己肯定感を育てている。児童は伸び伸びと学校生活を送っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の良さを褒めて伸ばす指導を大切に、一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・児童の活躍の場面を設定し、本人の良さなどについて保護者や地域に伝えていく。

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にし、児童が考 えの深まりを実感できるような学 習のまとめや振り返りを意識した 授業を組み立てる。 ・児童が興味・関心をもって授業に臨 めるような課題を設定するととも に、児童一人一人の状況に応じたき め細かな指導をする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 95.9%となり、指 標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に対してきめ細かな支援を していくとともに、見通しをもって学習 に取り組めるようにしていく。また、振 り返り活動の充実を図り、児童が学んだ 意義や自分自身が変容したり向上した りした喜びを実感できるようにしてい く。 ・日々の授業実践を重視し、児童の学習 状況を的確に把握することにより、朝の 学習時間や習熟度別学習を効果的に活 用し、学習内容の理解と定着を図る。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力作 して業務に取り組んでい る。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以 上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導、授業資料提供等におい て、教員同士が十分に連携を図りな がら、質の高い教育活動を実践す る。 ・管理職のマネジメント力の向上を 図ることで学校の組織力を強化し、 同僚性を発揮して児童への指導・支 援を充実する。 ・職員室前面のホワイトボードの活 用やミライム掲示板、打合せ時間の 確保など、共通理解を図る環境を整 える。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 100%で指標を 上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭や学校栄養士の授業参画、学 校図書館司書と図書館教育担当教諭が 連携した読書活動の推進など、日常的 に教職員相互の連携が図られ、質の高 い教育活動が実践していくことで、学 校の組織力を強化し、情報を共有して 児童への指導・支援の充実を図る。
<p>4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以 上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書業務、ALT、かがやきルーム 指導員、学校栄養士業務等が各種教 育活動に参画することや、教員業務 支援スタッフの有効活用により、教 員が児童と向き合う時間を確保す るとともに業務の軽減を図る。 ・PCを活用しての会議の効率化や、打 合せ・会議の機会精選などの取組に より、放課後の教材研究の時間を確 保する。 ・学校行事の反省等、教育課程のふり かえりや意見を取りまとめ、職員会 議で検討するなど、次年度以降の効 率化につながる改善に取り組む。 ・学校徴収金システム、インターネッ トバンキング等を活用して、出納業 務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は 100%で指標を 上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教職員がそれぞれの専門性を生か したり、チームで業務にあたったりす ることで、更に業務内容の改善と勤務 時間を意識した働き方改革を推進す る。 ・教職員向け校務支援ツール、さくら連 絡網などを活用しペーパーレス化を進 めるとともに、生成 AI の活用等につ いても校内研修で共通理解を図り、必 要に応じて活用できるようにしてい く。 ・学校支援ボランティアの参画による 業務の効率化を推進する。
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>小中一貫教育・地域学校園における 各部・分科会の計画の進捗状況につ いて情報交換をし、取組について各 種便り等で積極的に発信する。</u> ・<u>鬼怒地域学校園のあいさつ運動や 中学生によるボランティア活動を通 し、児童・生徒交流を積極的に推 進する。</u> 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 100%で指標を上 回っているが、保護者の肯定的回答は 76.7%で指標に届かなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生の職場体験や、中学校教員によ る乗り入れ授業、中学生とのあいさつ運 動、地域学校園共通のお話給食などの 小中一貫教育の取組について、趣旨の明 確化を図る。 ・地域学校園で協力し、活動の情報発信 に努めていく。

<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 保護者、地域の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会と連携し、地域の方々や保護者との交流を深める教育活動を推進し、より効果的な方法で広く情報を発信する。 ・体験活動を促進することによる教育活動の充実を図るため、学校支援ボランティア等の活用を計画的に実施する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 95.0%, 地域は 94.1%で指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の強みを生かし、地域行事への協力や参画を通して学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進していく。 ・PTAや地域協議会と協力し、学校支援ボランティア活動の充実を図る。
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 保護者、教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を確実に実施し、児童や利用者が安全に活用できる環境づくりに取り組む。 ・予算を効果的に活用し、破損箇所の修繕を計画的に行い、安全確保に努める。 ・保護者や利用者へ来校時の注意点の周知、危険個所の表示、AEDの活用、災害時避難方法、危機対応に関する情報を提供する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答は 89.5%, 教職員は 100%で指標を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校危機管理マニュアル等の見直し・改善を図り、現場での対応力を強化する。 ・今後も保護者と共に通学路の危険箇所点検を実施し、合同点検を要望するなど改善に向けた取組を継続していく。
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、各教科のデータを共有フォルダに格納し、教職員が共有できるようにする。 ・スクールタクト等を活用し、授業に役立つ動画や課題の共有を行うとともに、児童同士の意見交換や体験活動のまとめなどに1人1台端末を活用する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答が 100%となり、指標を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の有効活用やクラウド教材の共有、AIを活用した新たな教材作りなどに取り組んでいく。
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域と連携し、「平央小よい子の一日」や毎月の生活目標のもとに、きまりを守り、さわやかなあいさつができるようにする。 ・<u>あいさつ強化週間の設定</u>・児童会活動の活性化等を図り自発的にあいさつができる環境づくりをする。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 93.2%, 保護者の肯定的回答は 87.8%となり、指標の 85%を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活・登下校指導で、教職員から児童へ対しての積極的なあいさつを継続し、あいさつの習慣化を図っていく。 ・保護者や地域と連携したあいさつ運動を推進する。
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や休み時間等の時刻を守るよう全校体制で取り組む。 ・時と場に応じた適切な言動をとれるよう指導する。 ・学級、学校全体できまりやマナーの共通理解を深め、問題行動が発生した際には、全職員が共通認識をもち迅速に対応する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 90.4%となり、指標の 85%を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中や給食・清掃などの日頃の活動で、きまりやマナーについて指導を継続して行っていく。 ・児童会主体の啓発活動を通じ、全児童が共通の意識をもって実践できるようにする。
	<p>B3 児童は地域の人や保護者に見守られて安心して登下校している。</p> <p>【数値指標】 児童、保護者、地域の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時に教職員や保護者、地域防犯団体が連携して見守りを実施する。 ・下校時の見守り活動の活性化を図るため、地域協議会やエリアサポート平石の協力を得ながら、自治会への協力を要請する。 	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は 94.5%, 保護者の肯定的回答は 95.1%, 地域の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。教職員や保護者、地域の方々に見守られながら安全に登下校することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組を継続し、登下校時の見守り活動を活性化していく。 ・地域の方や保護者から児童の登下校の安全に関する情報を得た際には、適切に児童への指導や情報共有を行う。

	<p>B4 児童はよく考え、自分の意見を発表している。 【数値指標】 教職員、児童の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的やねらいを明確にし、児童が見通しをもって意欲的に取り組ませる。 ・児童が必然性を感じるような話合いの場を設定して、個々の考えを深めるようにする。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であったが、児童の肯定的回答は76.7%で、指標の85%を下回った。 【次年度の方針】 ・児童が学ぶ必然性を感じ目的意識をもって活動できるような授業の工夫に取り組んでいく。 ・自分の考えを発表の前に書かせたり、少人数やグループでの活動を充実させたりする。</p>
	<p>B5 児童は、苦手な食材でも食べようと努力している。 【数値指標】 児童の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食だよりを定期的に発行したり苦手克服メニューを毎月取り入れたりして、食育についての意識を高める。 ・健康的な食事ができない児童に対して個別指導を行う。 ・栄養士や養護教諭の授業への参画を推進する。(学級活動・保健体育・家庭科) 	<p>【達成状況】 ・児童の肯定的回答は91.8%となり、指標の85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、苦手克服メニューを立てることで、苦手なものでも食べようとする児童の意識を高めていく。</p>

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

25ある質問項目のうち、数値指標を達成したのは20項目であった。

今年度も学校経営方針の具現化に向け、教職員が一丸となって児童一人一人に応じた支援や指導に取り組んできた。今年度の評価結果から、児童・保護者・地域・教職員のすべての対象において、市平均を上回る項目が多数見受けられた。このことは、学校・家庭・地域が目的を共有し、共に歩んできた協働活動の成果であると言える。

・A2「児童は、思いやりの心をもっている。」では、児童・保護者・地域・教職員とも数値指標を上回り、特に児童の肯定的回答が前年度より6.1ポイント上昇した。本校の研究主題「自他のよさを認め合い、思いや願いを大切にできる子どもの育成」の下、環境整備や学習活動の工夫に努めたり他者との交流を深めたりした結果、児童自身が自他を大切にできる思いやりの心をもっていると確認できたと思われる。

・A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」では、児童の肯定的回答は前年度より4.3ポイント上昇した。校内研究の一つとして、教師自身が人権意識を高める研修に取り組んだ成果が表れたと思われる。ほめる、認めるなどの成就感や自己肯定感を味わえるような児童への言葉かけをこれからも継続していきたい。

・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」では、教職員の肯定的回答は100%であるが、児童の肯定的回答は78.1%であった。授業のアクティビティでは英語の楽しさを味わうことができているので、児童の目に触れる場所に英語での表記や掲示物等の工夫をし、さらに英語を身近なものにしていきたい。

・A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」では、児童の肯定的回答は90.4%であるが、保護者の肯定的回答が76.9%で数値指標に届かなかった。しかし、前年度より肯定的回答は微増しているため、引き続き平石地区や宇都宮市について学んだことを各種たよりだけでなく、他学年の児童等にも発信していきたい。

・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」では、児童の肯定的回答は97.3%であった。保護者の値は77.8%と数値指標を下回った。道徳や児童会活動等がいじめに関する指導を続けていることが児童には浸透していると見受けられる。児童と教職員、あるいは児童相互の心の絆を深め「居場所」が感じられる温かな集団づくりを通して、いじめの未然防止に努めていきたい。

・A17「学校は小中一貫教育・地域学校園の取組をおこなっている。」では、児童の肯定的回答は100%であるが、保護者の肯定的回答は76.7%で数値指標を下回った。年2回の小中合同あいさつ運動や中学校教員による乗り入れ授業、中学校訪問、また、図書館司書や学校栄養士、養護教諭らが定期的に話合いを行い、連携した取組や活動の推進に努めている。各種たより等で発信されていることをさらに周知させていきたい。

・B4「児童はよく考え、自分の意見を発表している。」では、教職員は100%の肯定的回答であるが、児童は76.7%で数値指標を下回った。児童が自ら主体的に学習に参加していると実感できるよう、グループ活動を効果的に進めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・ B 4 「児童はよく考え、自分の意見を発表している。」において、児童の肯定的割合が下がっているのは、下学年の児童数が増え、自分の意見を伝えられていないと感じる児童が増えたのではないか。
- ・ A 1 1 「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の保護者の肯定的割合が前年度より下がっていることを懸念している。子供たちは家庭で学校の話をするが、保護者に学校の様子がきちんと伝わっていないのではないか。そこには、教職員と保護者のコミュニケーション不足があるかもしれない。保護者の立場になると、疑問に思うことをすぐ学校に聞くことは容易ではない。互いの距離を近くする方法を検討するとよいのではないか。第1回授業参観後の「地域フォーラム」等を活用するなど、学校の取組を知らせる機会を見出すことも必要であろう。
- ・ 肯定的割合が下がったのは、感覚の違いの表れもあるのではないか。
- ・ 保護者としての責任も感じていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や児童・保護者・地域の皆様から寄せられた評価や意見を受け、これまでの取組の成果を生かすとともに、次年度の方策について全職員で検討し、組織として一丸となって取り組んでいきたい。

・ 児童一人一人の実態を的確に捉え、その子の強みや弱み、興味に合わせた指導・支援に取り組んでいく。また、特性に応じた環境も工夫し整えていく。

・ 学校経営方針に沿って、互いに高め合う同僚性を育むことで、組織的、計画的な授業改善に取り組む。その結果として、全ての子供たちに確かな学力を定着させていく。

○鬼怒地域学校園の重点目標の「書くこと」について、発達段階に応じた指導を充実させる。書くことへの意欲の向上を図り、論理的な文章構成の基本を身に付けさせたり語彙力の増加を目指したりすることで、思考力やコミュニケーション力を高める。

・ いじめや不登校を未然に防ぐために、全ての教員の指導力を向上し、家庭や地域、関係機関等との連携・協働を促進する。

・ 地域とともにある学校づくりを推進するため、家庭・地域・企業等の地域資源や地域人材をこれからも活用し、協働活動の充実を図る。